

2011年3月11日、彼女はそこにいました。

彼女の名は、テイラー・アンダーソン(当時24歳)。

米東部バージニア州生まれ。小学校の頃から日本に関心があり、日本語を習得。

2008年に英語指導助手として来日。そして、2011年3月11日…。



「夢を生きる テイラー・アンダーソン物語」は、
宮城県石巻市で東日本大震災の犠牲となった
テイラーさんの軌跡をたどるドキュメンタリー映画です。



■アンディ・アンダーソン(テイラーさんの父親)

「娘が日本を愛したのは、日本の皆さんから受けた優しさにお返しをしたかったからです。大切な人を亡くした被災地の人々に前を向いてもらえることを願っております」

■レジー・ライフ(本作監督)

「映画は、テイラーさんだけでなく震災に関わった人全員を讃えるものです。テイラーさんは夢を追い続けた。日本も復興を遂げ、夢に向かって進んでほしいと思います」

監督プロフィール:レジー・ライフ(Regge Life)

ニューヨーク生まれ。ニューヨーク大で美術の修士号取得。1990年に芸術交流事業で初来日。「男はつらいよ 寅次郎の休日」(シリーズ第43作)の撮影現場にも立ち会う。テイラーさんのことは、震災後にニュースやネットの書き込みで知り、「どんな人なのだろう」と興味がわきあがった。そして、遺族の同意を得て、約8カ月をかけて本作を完成させた。

あなたのためにできること。私のためにできること…。
あの日を忘れない。あなたを忘れない。あなたは、ここにいる。



3月11日に起きた痛ましい大惨事の直後に寄せられた温かい思いやりと惜しみない支援は、日米の絆を更に強固なものにしました。アメリカと日本は良き友人として、また同盟国として被災地の復興や人々の生活の再建、そして人々の心に再び希望の光を灯すという最も重要な課題に向けて、努力を惜しまず互いに協力し、助け合っていました。

短い生涯の間、数多くの人々に幸福と喜びを与え続けたテイラーさん。そのような人生を送ることが、彼女の夢だったのではないのでしょうか。

一人でも多くの若者がこの「夢を生きる テイラー・アンダーソン物語」によって勇気づけられ、日米の架け橋となり活躍してくれることを切に願っております。

前駐日米国大使

ジョン・V・ルース